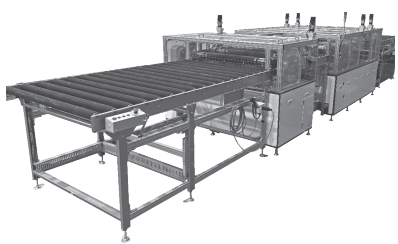


太陽光パネルのリサイクルに役立つ 自動分離装置が注目を集める エヌ・ピー・シー

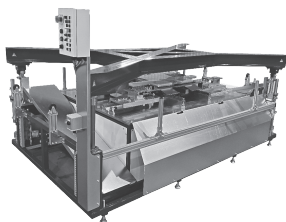
エヌ・ピー・シー（東京都台東区東上野一丁目一五・ヒュリック東上野二丁目ビル、☎〇三―五八一七―八八三〇）は、五月二十八日〜三十日まで東京ビッグサイトで開催された「NEW環境展」に、太陽光パネルのリサイクルの貢献する各種機器を紹介し、好評を博した。

同社は創業以来、太陽電池製造装置、F A装置、枚葉式真空貼合装置、真空断熱パネルの封止装置などの開発・提供を行ってきた。中でも主力製品である太陽電池製造装置は、30年以上の実績を有しており、累計50ヶ国以上の太陽電池メーカーに提供してきた。近年では、これまで培った高度な技術・ノウハウを活かし、使用済み太陽光パネルのリサイクル装置の開発に着手。再生可能エネルギーの代表とも言える太陽光発電を推進し、環境に優しい社会づくりに貢献する。

「ガラス分離装置」は、独自のホットナイフ分離法[®]によりカバーガラスをその他の部材と分離することができる装置である。ホットナイフ分離法[®]とは、約300℃に加熱



ガラス分離装置[®]と分離されたガラス[®]



フレーム・J-Box
分離装置

したナイフでEVAを溶解し、ガラスを割ることなくセルシート（金属含む）と分離する技術。板状ガラスとして資源価値の高い状態での回収を可能とする。海外の板ガラスメーカーでは当社のガラス分離装置で分離したガラスを買取り、2024年秋から既に数百トン規模で水平リサイクルがなされている。

さらにガラス分離装置の後工程として、特殊なブラシにより残存EVAを除去する新装置「EVAスクレーパー」を今月リリースした。これによ

りガラスを割らず表面に残ったEVAを効率的に除去でき、水平リサイクル時のガラスの価値向上及びリサイクル性の大幅な向上を実現することができる。

さらに、同展示会では産業廃棄物処理業向けのAI搭載選別機「N-PIC」も紹介され、こちらも注目を集めた。

「フレーム・J-Box x分離装置」は、太陽光パネルを投入すると約40秒でフレーム4本とジャンクションボックスに自動的に分離する装置である。

高品質ながらリーズナブルな同装置は初期導入に最適。電源さえあれば屋外でも稼動するのでも

<https://www.npcgro.jp/en/>

